

Annual Report 2016

2016年度 事業報告書



公益財団法人

川野小児医学奨学財団

理事長 × 常務理事対談

(公財)川野小児医学奨学財団の「これまで」と「これから」について川野理事長・柳澤常務理事にお聞きしました。



柳澤常務理事



川野理事長

質問：まず初めに、川野小児医学奨学財団を設立したきっかけとこれまでの活動を教えてくださいませんか

● 理事長：私は昭和57年の秋に、当時8歳だった長男正登をウイルス性脳炎で突然亡くしました。それまでの私は仕事一筋で、子どもと過ごす時間も大切にできませんでした。ですから、正登が亡くなった時、妻から「あの子はお父さんを求めている」という言葉を聞いて、強く衝撃を受けたのを今でも覚えています。申し訳なかったという想いで胸がいっぱいでしたが、後悔は先に立ちません。正登の霊を慰め、そして病気で苦しむ子どもたちを出来るだけ少なくしたいという想いで、

この財団を設立しました。

当時の常務理事と相談をして、小児医学の発展には、小児医学研究者や将来小児科医を志す学生への支援が必要であろうという結論になり、財団を設立した翌年に研究助成事業と奨学金事業を始めました。その後、設立10周年を記念して平成11年から優れた業績を挙げられた小児医学研究者を表彰する小児医学川野賞を創設しました。その他に、医学会や小児医療施設への助成も行っています。

質問：現在も小児医学界でご活躍されている柳澤常務理事にお伺いしたいのです

が、実際、小児医学研究者の方たちから当財団についての評価を耳にされることはありますか

○ 常務理事：はい、あります。私は、平成17年から当財団の選考委員、平成21年から常務理事として携わっているのですが、その間にも多くの小児医学研究者から当財団の活動に対する賛同の声を聞きました。特に、小児医学研究に対する助成は、社会的にみて決して恵まれている状況ではありません。そんな中で、1件あたりの額が大きく、毎年継続して、ある程度の数の研究に対して助成金を交付していることは、非常に大きな意味を持っていると思います。

また、小児医学川野賞も小児医学界において意義が大きいと思います。この賞は、卓越した業績を残し、これからの活躍も大いに期待できる小児医学研究者に差し上げる賞ですが、こういった方たちをきちんと評価することは、これからの小児医学界を牽引していく存在を作っていくことにつながります。実際に、これまでの受賞者の活躍は本当に目覚ましいものがあります。

質問：財団の「これまで」についてお話を聞いてきましたが、財団の「これから」についてお話をお聞かせ下さい

● 理事長：柳澤常務理事のお話しにもありましたが、これまで行ってきた事業は小児医学や医療の発展にとって価値があると感じています。ですから、まずは従来の活動をきちんと継続していくことが重要だと思っています。それを前提とした上で、さらなる充実を図っていきたくと考えています。例えば、これまでの事業では日本国内で研究をされる方を対象にしていますが、知見を広めるために海外留学を希望される研究者への助成などは検討の価値があると思います。

○ 常務理事：実際、留学経験がその後のキャリアに大きな意味をもたらした先生方も多くいらっしゃいます。ただ、意識が高くても、留

学自体には多額の費用が必要になりますから、経済的なハードルが高いのが現状です。研究助成事業ほどの助成数は難しいと思いますが、海外留学助成は希望者にとって大きなインパクトになると思いますし、将来的に小児医学をリードする存在を輩出するという観点からも意義があることでしょう。

● 理事長：また、ゆくゆくは、将来子どもたちが置かれる状況を見据えて、事業を展開していくことも大切だと思います。「100年時代の人生戦略」という本が出ているように、平均寿命は年々伸びていて、今の先進国で生まれる子どもたちの寿命は50%以上の確率で105歳以上になると言われています。そうすると、その長い人生をいかに健康で過ごすかが重要になってきます。ですから、将来病気になるための、例えば食育であるとか、小さい頃の習慣であるとか、そういった事を親御さんや子どもたち本人に啓発していく存在になってほしいと思っています。また、こういった機会を作ることは小児医学や医療への社会的な関心を高めるきっかけにもなると思います。

○ 常務理事：同感ですね。研究助成や川野賞の事業でも、基礎から臨床・社会医学まで幅広い分野を対象としていますので、子どもの健康促進に関する研究にも支援していますが、親や子ども自身にも健康について

考えてもらうきっかけを作り出すというのは価値あることだと思います。私は、医療というのは行政・医療関係者・国民一人一人を含めた社会全体で支えなければならないと思っていますから、特にその意義を感じますね。

● 理事長：それ以外にも私たちの財団だからこそ出来ることはたくさんあると思います。病に苦しむ子どもたちを減らし、生涯健康でいられる子どもたちを増やすために、小児医学や医療に対してどんな支援をすればいいのか、様々な方からご意見頂きながら、かたちにしていきたいと思っています。



理事長 川野幸夫

Yukio Kawano

株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

常務理事 柳澤正義

Masayoshi Yanagisawa

国立成育医療研究センター / 名誉総長

目次

平成 28 年度 事業報告

1 研究助成

平成 28 年度 研究助成：交付者一覧	5
平成 28 年度 研究助成：若手枠交付者インタビュー	7
研究助成：これまでの実績	8

2 奨学金給付

平成 28 年度 奨学金給付：給付者大学一覧	9
平成 28 年度 奨学金給付：給付者インタビュー	10
奨学金給付：これまでの実績	11

3 小児医学川野賞

平成 28 年度 小児医学川野賞：受賞者インタビュー	12
小児医学川野賞：これまでの実績	14

4 医学会助成

平成 28 年度 医学会助成：助成一覧	15
医学会助成：これまでの実績	16

5 小児医療施設支援

平成 28 年度 小児医療施設支援：活動報告	17
平成 28 年度 小児医療施設支援：支援施設インタビュー	18

6 医学書寄附

平成 28 年度 医学書寄附：活動報告	19
---------------------	----

平成 29 年度 経過報告

1 研究助成

平成 29 年度 研究助成：交付者一覧	21
---------------------	----

2 奨学金給付

平成 29 年度 奨学金給付：給付者一覧	23
----------------------	----

3 平成 29 年度の募集について

募集概要	24
------	----

役員・評議員・選考委員一覧	25
---------------	----

ご寄附のお願い	26
---------	----

平成 28 年度 | 事業報告

Annual Report 2016

1 研究助成

平成 28 年度 研究助成：交付者一覧

平成 28 年度は、一般枠 25 名・若手枠 36 名の応募があり、平成 28 年 3 月 5 日に開催した選考委員会の結果、一般枠 14 名・若手枠 16 名の計 30 名の研究者の方に総額 41,370 千円の助成金を交付しました。

[一般枠 14 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
安永 正浩	国立研究開発法人国立がん研究センター 先端医療開発センター・新薬開発分野 「IL-7R を標的にした難治性小児白血病治療薬の開発」	3,000
道上 敏美	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター研究所環境影響部門 「低ホスファターゼ症の分子病態解析およびゲノム編集を用いた遺伝子修復の試み」	2,000
川村 眞智子	埼玉県立がんセンター血液内科 「思春期の難治性白血病における クロモソリプシス(染色体粉砕)の関連と病態解明」	3,000
松本 浩	防衛医科大学校病院小児科 「ミトコンドリア分裂異常による Leigh 症候群の病態解明」	2,400
江口 真理子	愛媛大学大学院医学系研究科小児科学 「遺伝子変異に基づく先天性心疾患の発症機構と病態解析」	2,400
門田 行史	自治医科大学小児科学 「NIRS を用いた ADHD 治療の最適化を目指して —在宅脳機能モニタリングの挑戦—」	2,400
大久保 淳	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 「ランゲルハンス細胞組織球症の次世代シーケンサーによる エクソソーム解析」	2,400

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
田中 絵里子	東京医科歯科大学小児科・発生発達病態学分野 「小児特発性ネフローゼ症候群における 免疫学的異常因子の解明」	1,880
西堀 由紀野	杏林大学医学部小児科学教室 「未熟児網膜症の発症起点における VEGF 受容体2の 新規下流分子 TSAd の役割」	2,400
藤原 なほ	順天堂大学医学部小児外科学講座 「神経ガイダンス因子によるヒルシュスブルング病に対する 新規再生治療法の開発」	2,400
藤井 克則	千葉大学大学院医学研究院小児病態学 「ヘッジホッグシグナル異常症の病態解明と 治療法確立のための臨床的研究」	1,500
佐藤 智	埼玉県立小児医療センター感染免疫・アレルギー科 「難治性小児リウマチ性疾患に対する網羅的遺伝子発現解析」	1,500
長谷川 俊史	山口大学大学院医学系研究科医学専攻小児科学講座 「新生児・乳児消化管アレルギーの病態解明および 診断法の確立」	1,500
植松 崇之	北里大学メディカルセンター研究部門 バイオメディカルラボラトリー 「新規自然免疫受容体による糖鎖依存的なインフルエンザ ウイルス認識機構の解明」	1,500

[若手枠 16 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
鳴海 覚志	慶應義塾大学地域小児医療調査研究寄附講座 「次世代型遺伝子解析装置による McCune-Albright 症候群部分症例の診断」	1,000
正田 哲雄	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 「アトピー性皮膚炎のバイオマーカー発現制御に係る マイクロ RNA の同定」	1,000
崎山 真幸	防衛医科大学校分子生体制御講座 「尿酸トランスポーター遺伝子を対象とする腎性低尿酸血症の 臨床遺伝学的解析」	800
酒井 宏治	国立感染症研究所ウイルス第三部第一室 「RS ウイルスの病原性発現に係る分子メカニズムの解明」	800
吉見 愛	茨城県立こども病院小児血液腫瘍科 「miRNA を用いた造血細胞移植後血栓性微小血管障害の 新規診断法の開発」	800
永田 絵子	浜松医科大学医学部附属病院臨床研究管理センター 「裂手裂足症を招く新規疾患成立機序の解明」	800
青柳 順	自治医科大学小児科学 「小児特発性ネフローゼ症候群の病態解明 —質量分析法による病勢関連蛋白質の同定—」	800
關中 佳奈子	防衛医科大学校小児科学講座 「PTEN 異常による原発性免疫不全症の診断と病態解明」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
星野 顕宏	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 発生発達病態学分野 「EB ウイルスに対する免疫応答異常症の網羅的診断と機能解析」	800
西尾 佳明	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 移植免疫研究室 「iPS 細胞から分化誘導した制御性樹状細胞(DCreg)による 臓器移植制御法の開発」	500
平野 大志	東京慈恵会医科大学小児科学講座 「イヌリンを用いた重症心身障害児(者)の 糸球体濾過量測定標準化」	500
木村 有喜男	国立精神・神経医療研究センター病院放射線診療部 「位相差強調画像法を用いた小児神経疾患の 画像診断の研究」	490
戸澤 雄介	北海道大学大学院医学研究科小児科学分野 「ヘテロ NFKB2 変異を有する抗体産生不全症患者の解析」	500
岩本 洋一	埼玉医科大学総合医療センター小児循環器科 「心臓ステイフネス評価の為に 新型心筋 MR エラストグラフィーの開発」	500
佐野 史和	山梨大学医学部附属病院小児科 「ミクログリアの機能制御によるてんかん先制医療のための 基礎的検討」	500
川又 竜	国際医療福祉大学病院小児科 「早産児の体重増加不良にかかわる生体因子の解析と その治療法の開発」	500

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

平成 28 年度 助成研究成果発表会の様子



平成 28 年度 研究助成：若手枠交付者インタビュー

平成 28 年度研究助成金若手枠の交付者 鳴海先生にお話をお聞きました。



鳴海 覚志 先生
Satoshi Narumi

国立成育医療研究センター研究所
分子内分泌研究部 基礎内分泌研究室 室長
(交付内定時ご所属：慶應義塾大学地域小児医療調査
研究寄附講座)

1. ご研究テーマ

次世代遺伝子解析装置による McCune-Albright 症候群部分症症例の診断

2. ご研究の概要を教えてください

McCune-Albright 症候群は褐色の皮膚のあざ(カフェオレ斑)、骨組織の異常(線維性骨異形成症)、内分泌異常(思春期早発症など)が組み合わさって起こる先天性疾患です。GNAS と呼ばれる遺伝子の異常が McCune-Albright 症候群を引き起こしますが、この遺伝子異常はからだの細胞のごく一部(典型的には 0.1% 未満)のみに生じる性質があり、従来の遺伝子解析装置では遺伝子診断が困難でした。今回、助成をいただいた研究は、2013 年に私どもが開発した、次世代遺伝子解析装置を用いる新規診断法を用いたものです。典型的な McCune-Albright 症候群患者さんではなく、McCune-Albright 症候群の症状の一部のみを持つ患者さんにおいて、どれくらいの頻度で GNAS 遺伝子異常が検出されるかについて調べました。

3. 当財団の研究助成に応募しようと思った動機を教えてください

何より、川野理事長の強いメッセージに感銘を受けたからです!

大学卒業後4年間を小児科医として勤務し、「小児医学研究を通じて子どもの病苦を少しでも減らしたい」と考えるようになりました。大学院生となった 2009 年以来、小児医学研究に従事する中で、川野小児医学奨学財団の助成金に応募する機会をいただきました。募集要項を確認したときに理事長のメッセージを読み、奮起して作文したことを覚えています。

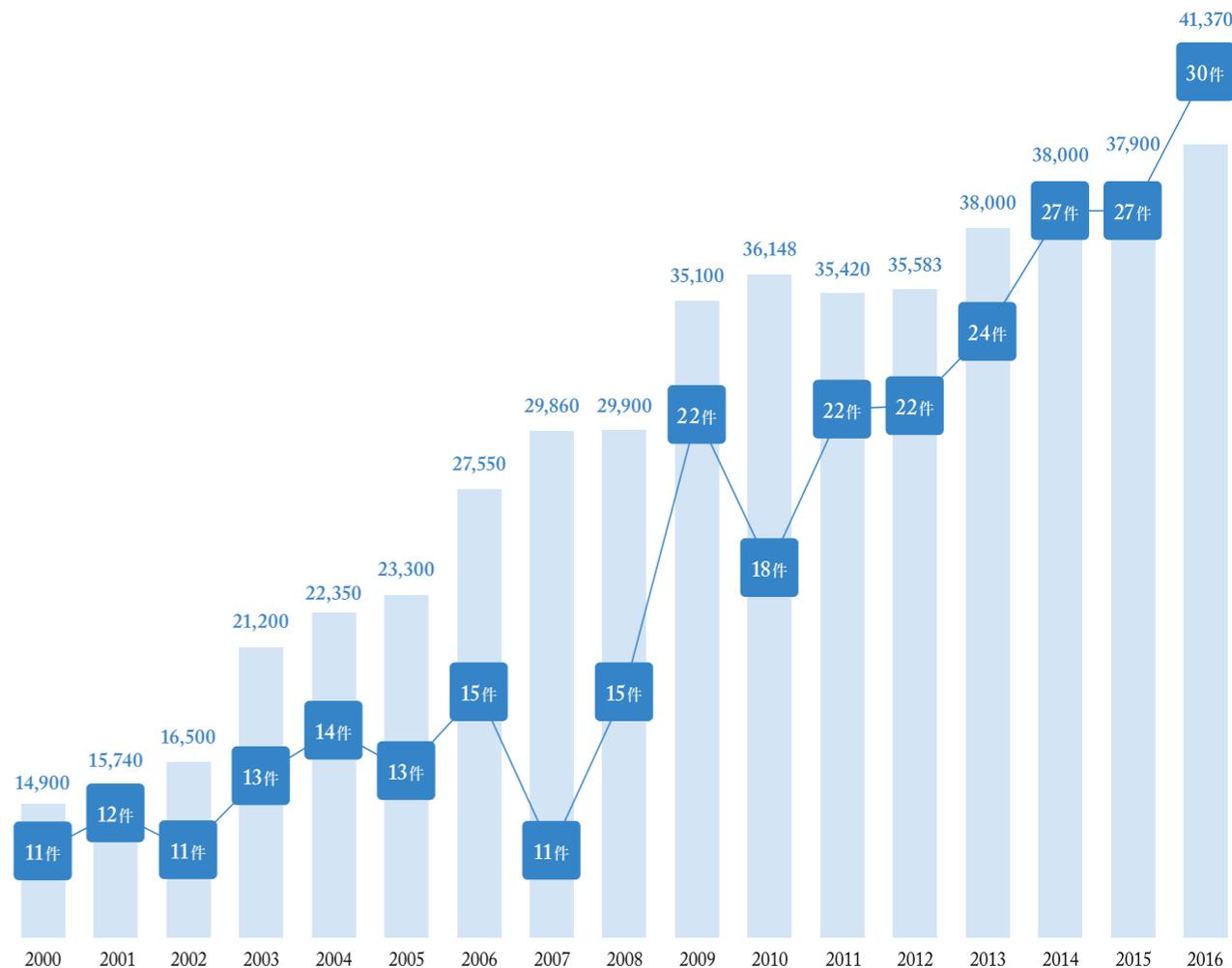
4. 当財団の研究助成金を受けて良かったと感じたことは何ですか

第一に、川野小児医学奨学財団から研究助成を受けることそのものに大きな価値があることです。第二に、研究遂行に十分な金額の助成をいただいたことです。スピーディーな研究活動に大いに役立ちました。改めて、小児医学研究へのご理解とご支援に感謝申し上げます。

5. 今回のご研究を踏まえて、今後、どのようなことに挑戦したいですか

これまで小児科領域の稀少難病(McCune-Albright 症候群を含む)の遺伝子診断研究に携わってきました。「主治医の先生から依頼を受けて、診断結果をお返りする」というサイクルが基本であり、遺伝子診断の実施が診療上のような影響をもたらしたかはほとんどフォローできていません。診断を正しくつけることは医療の根幹ではありますが、目的ではありません。今後は、患者さん・ご家族の well-being に貢献できるような遺伝子診断のあり方を、医療現場との関わりの中から見つけてゆきたいと考えています。

研究助成：これまでの実績



(単位 千円)

※平成 2 年から開始

2 奨学金給付

平成28年度 奨学金給付：給付者大学一覧

平成28年度は、新規6名・継続15名の計21名の医学生に対して、総額15,120千円を給付しました。

[新規給付6名]

大学名	人数	年間給付額(千円)
岡山大学	1	720
慶應義塾大学	1	720
島根大学	1	720
獨協医科大学	1	720
新潟大学	1	720
福島県立医科大学	1	720

[継続給付15名]

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	2	1,440
愛媛大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	3	2,160
産業医科大学	2	1,440
島根大学	1	720
順天堂大学	1	720
名古屋大学	1	720
新潟大学	1	720
山梨大学	2	1,440

※五十音順

平成28年度 奨学金：給付者インタビュー

平成29年3月に大学を卒業し、4月から研修医として働いている濱田さんにお話をお聞きました。



濱田 洋輔

Yosuke Hamada

卒業大学：名古屋大学医学部
所属：虎の門病院

1. 医学の道に進もうと思ったきっかけがあれば教えてください

身近な人の糖尿病を治したいという想いや、メディアの影響により、幼少時から漠然と医師になることに憧れていました。ただ、高校卒業後は英国の大学へ進学し、生化学を学びました。医学の道に進むことを本格的に考え始めたのは、その大学で神経原性疼痛の研究をしていた時です。基礎研究と臨床の現場をつなぐことで社会に貢献したいと思い、医師になることを決めました。日本に帰国後、医学部に編入し、がん研究等を通して、未来ある子供たちの命を奪う小児がんの治療に興味を持ち、特に小児医学へ貢献したいと思いました。

2. 医学部で学ぶにあたり大変だったことは何ですか

勉強量が多いことは言うまでもありませんが、授業で学ぶ医学的な知識は、臨床の現場に出るまではイメージが付きにくく、なかなか覚えられず苦労しました。また、いざ患者さんを目の前にした時に、学んだ知識がその患者さんにとって絶対に正しいとは限らないと感じていたので、常に疑いの目を持って考え続けなければならないことが大変でした。

3. 当財団の奨学金があっただけよかったと思うことは何ですか

バイトに時間を費やす代わりに、勉強や課外活動など医学部生として必要なことに時間を使うことができ、大変感謝しています。さらに大学在学中に、ペンシルベニア大学に2か月間の留学が決まった際にも、金銭的な助けになりました。小児科や腫瘍内科の実習を通じて、大変貴重な経験をすることができました。

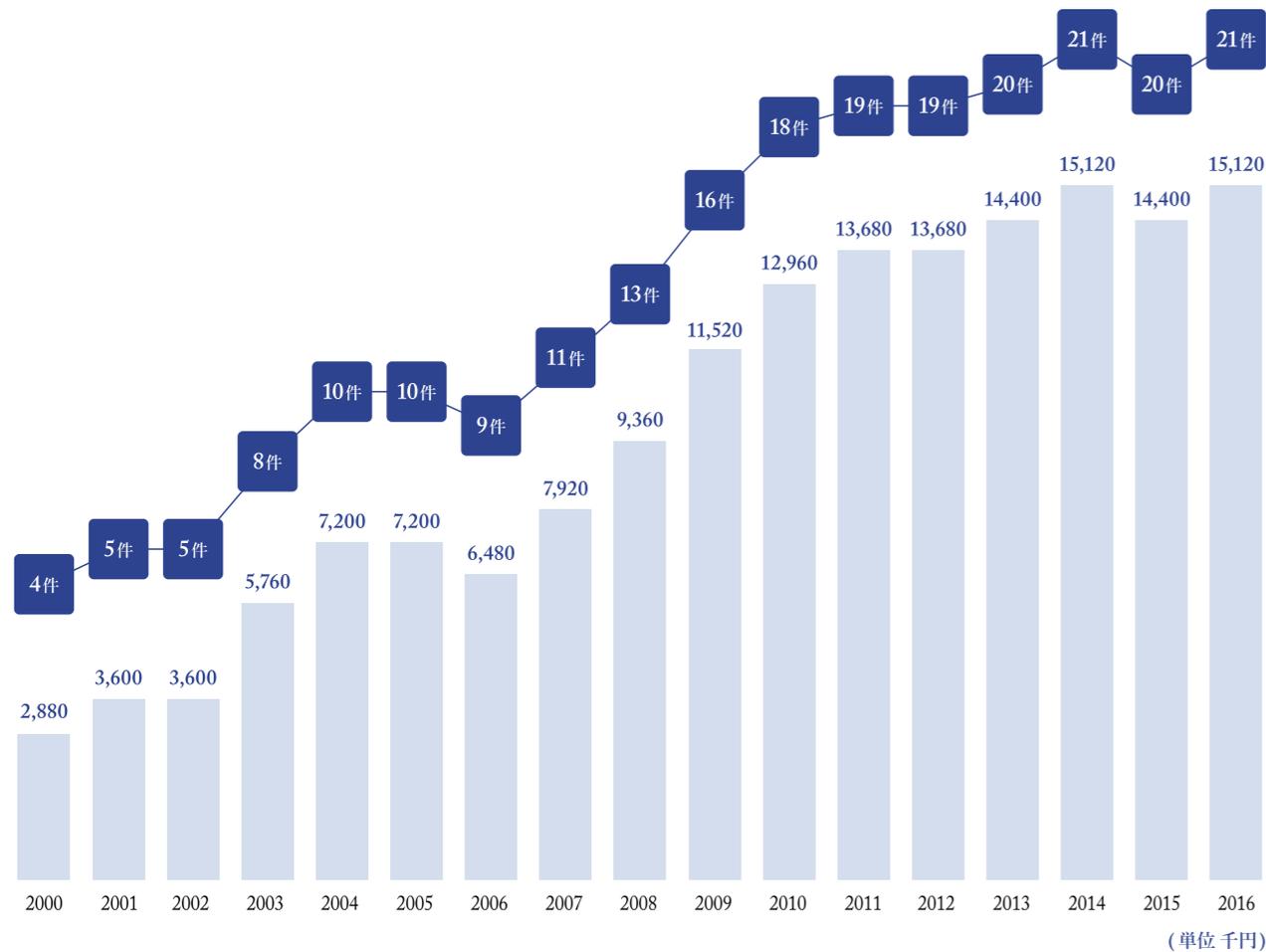
4. 今後、どのように活躍したいですか

がん全般に興味があるので、外科も内科も含めて幅広く研修し、外科専門医を取得した上で、がん治療について更に理解を深めたいと考えています。小児外科や小児がんも対応できる腫瘍内科も視野に入れて努力を続けたいです。

5. これから医学の道を志す学生にメッセージがあればお願いします

思わぬところで知識は繋がると思うので、遊び心を持って、幅広く勉強して充実した学生生活を送って下さい。また、色々なところでの出会いも大切に頑張って欲しいと思います！

奨学金給付：これまでの実績



※平成2年から貸与型を開始、平成22年から給付型を開始し、平成27年からは給付型のみ

3 小児医学川野賞

平成28年度 小児医学川野賞：受賞者インタビュー

平成28年度は、基礎医学分野6名・臨床社会学分8名の応募があり、平成28年12月3日に開催した選考委員会の結果、基礎医学分野 東京大学 北中先生・臨床社会医学分野 神戸大学 野津先生の2名に贈呈しました。



北中幸子先生

Sachiko Kitanaka

東京大学大学院
医学系研究科小児医学講座 准教授

1. ご研究テーマ

小児内分泌疾患の原因遺伝子同定と発症機序の解明

2. ご研究テーマの概要を教えてください

先天性の疾患には、原因遺伝子が分

かっていないものが依然多くあります。私は、原因不明の先天性疾患の原因遺伝子を同定すること、また疾患の発症機序を分子生物学的に解明することを行っています。最近、著明な低身長と副甲状腺機能低下症を主症状とするケニー・キャフェイ症候群2型の原因遺伝子を同定しました。また、先天性のくる病であるビタミンD依存性くる病において、ビタミンD受容体遺伝子の塩基配列を解析し、ゲノム解析及び機能解析により、その発症機序を解析いたしました。現在はiPS細胞を用いた研究もしています。

3. ここまで研究を続ける中で特にご苦労されたことを教えてください

何と言っても、ワーク・ライフ・バランスです。これまで、育児、介護、転勤、単身赴

任などさまざまなライフイベントがありました。そのような中で、臨床・教育もしつつ、研究の時間を確保するのはとてもたいへんです。小児科医は女性が多く、これからの人たちにとっても、ワーク・ライフ・バランスをいかに保てるかは重要な課題です。そういう意味では、自分が道を切り開いていく役割も担っているのではと感じています。

4. 小児医学川野賞を受賞された感想をお聞かせ下さい

今回、このような素晴らしい賞をいただき、とても光栄に存じます。小児分野は、研究費、研究員、時間の余裕などの研究環境が整わないために、できるはずの研究が進んでいないのが現状です。このような賞をいただくと励みになり、今後さらに研究をすすめる意欲がわきます。



野津寛大先生

Kandai Nozu

神戸大学大学院
医学研究科内科系講座小児科 准教授

1. ご研究テーマ

小児遺伝性腎疾患における網羅的診断体制の確立および治療法の開発

2. ご研究テーマの概要を教えてください

小児期発症の腎疾患には、たくさんの遺伝性腎疾患が含まれます。そのほとんどにおいて既に原因遺伝子が同定されていますが、その煩雑さから、日本国内において網羅的遺伝子診断システムは確立されていませんでした。そのため、私たちはその診断体制の確立を行い、現在、毎月2~30検体の依頼を受けています。その結果、これまで診断名のはっきりしなかった患者さんの確定診断を

行うとともに、日本人におけるあらゆる遺伝性腎疾患の特徴につき報告を行ってきました。中でも遺伝子診断の依頼の多いアルポート症候群という病気は、男性患者では20歳代で腎不全へと至る非常に重篤な疾患ですが、いまだ治療法は開発されていません。これまで約400家系の患者さんで遺伝子診断を行った結果、一部の遺伝子変異を有する場合、非常に軽症で40歳代以降に腎不全へと進行する臨床的に軽症な患者群が存在することが分かってきました。その特徴を分析し、現在重症患者さんを軽症化するための治療法の開発を行っています。

3. ここまで研究を続ける中で特に

ご苦労されたことを教えてください

次世代シーケンサーという最新の遺伝子解析機械が導入される以前は遺伝子診断の仕事はとても手間のかかる大変な作業でした。例えばアルポート症候群においても、その遺伝子診断のためには1検体につき150のエクソンの解析を行うために150回PCRをかける作業が必要でした。臨床的にアルポート症候群と診断できる患者さんにおいて、それだけ苦労して解析をしても遺伝子変異が同定

できないことがありました。その場合、普通は解析を行わないメッセージ RNA の解析を行うなどしてその診断率を高める工夫を行ってきました。小児腎臓科医の先生方とは、その際の信頼関係の構築が有り、現在の体制に移行後もたくさんの遺伝子診断をご依頼していただくに至っています。その際の苦労が報われていると感じることが多々あります。

4. 小児医学川野賞を受賞された感想をお聞かせ下さい

これまで受賞された先生方のそうそうたる顔ぶれを拝見し、恐縮するとともに非常に光栄に感じています。また私の履歴書の受賞履歴欄に小児医学川野賞受賞と記載させていただき喜びを感じるとともに、受賞者として、川野賞の価値をさらに高められるよう今後の臨床および研究の発展に貢献することでこのご恩をお返しできたらと思っています。まずは現在着手している、アルポート症候群の新規治療法を開発し、なんとかしてこの病気を治療できる疾患にしたいと考えています。

小児医学川野賞：これまでの実績

回/年度	氏名/所属機関
第1回/平成12年度	奥山 真紀子/埼玉県立小児医療センター

回/年度	氏名/所属機関	
	小児基礎医学	小児臨床・社会医学
第2回/平成13年度	林 泰秀/東京大学医学部小児科 長谷川 奉延/慶應義塾大学医学部小児科	平岡 政弘/福井医科大学小児科
第3回/平成14年度	廣瀬 伸一/福岡大学医学部小児科	大井 静雄/東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第4回/平成15年度	緒方 勤/国立成育医療センター研究所	吉川 徳茂/和歌山県立医科大学小児科
第5回/平成16年度	斎藤 博久/国立成育医療センター研究所	加治 正行/静岡県立こども病院
第6回/平成17年度	伏木 信次/京都府立医科大学大学院医学研究科	
第7回/平成18年度	大橋 十也/東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所	夏目 長門/愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第8回/平成19年度	峯岸 克行/東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学 塚原 宏一/福井大学医学部付属病院小児科	山高 篤行/順天堂大学医学部小児外科
第9回/平成20年度	金子 英雄/岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター	小崎 健次郎/慶應義塾大学医学部小児科学教室
第10回/平成21年度	深尾 敏幸/岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学	高橋 幸利/国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
第11回/平成22年度	先崎 秀明/埼玉医科大学国際医療センター	海老澤 元宏/国立病院機構相模原病院臨床研究センター
第12回/平成23年度	下澤 伸行/岐阜大学生命科学総合研究支援センター	川崎 幸彦/福島県立医科大学小児科
第13回/平成24年度	福田 誠司/鳥根大学医学部小児科学	加藤 光広/山形大学医学部付属病院小児科
第14回/平成25年度	滝田 順子/東京大学大学院医学研究科生殖・発達・加齢医学小児科	浜野 晋一郎/埼玉県立小児医療センター
第15回/平成26年度	滝沢 琢己/群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野	高橋 謙造/帝京大学大学院公衆衛生学研究所
第16回/平成27年度	田島 敏広/自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科	家入 里志/鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児科学分野

※敬称略・所属機関は受賞時の機関
※第2回/平成13年度以降は小児基礎医学及び小児臨床・社会医学それぞれの分野より選出

4 医学会助成

平成 28 年度 医学会助成：助成一覧

平成 28 年度は、5 件の医学会に対して総額 2,150 千円の助成金を交付しました。

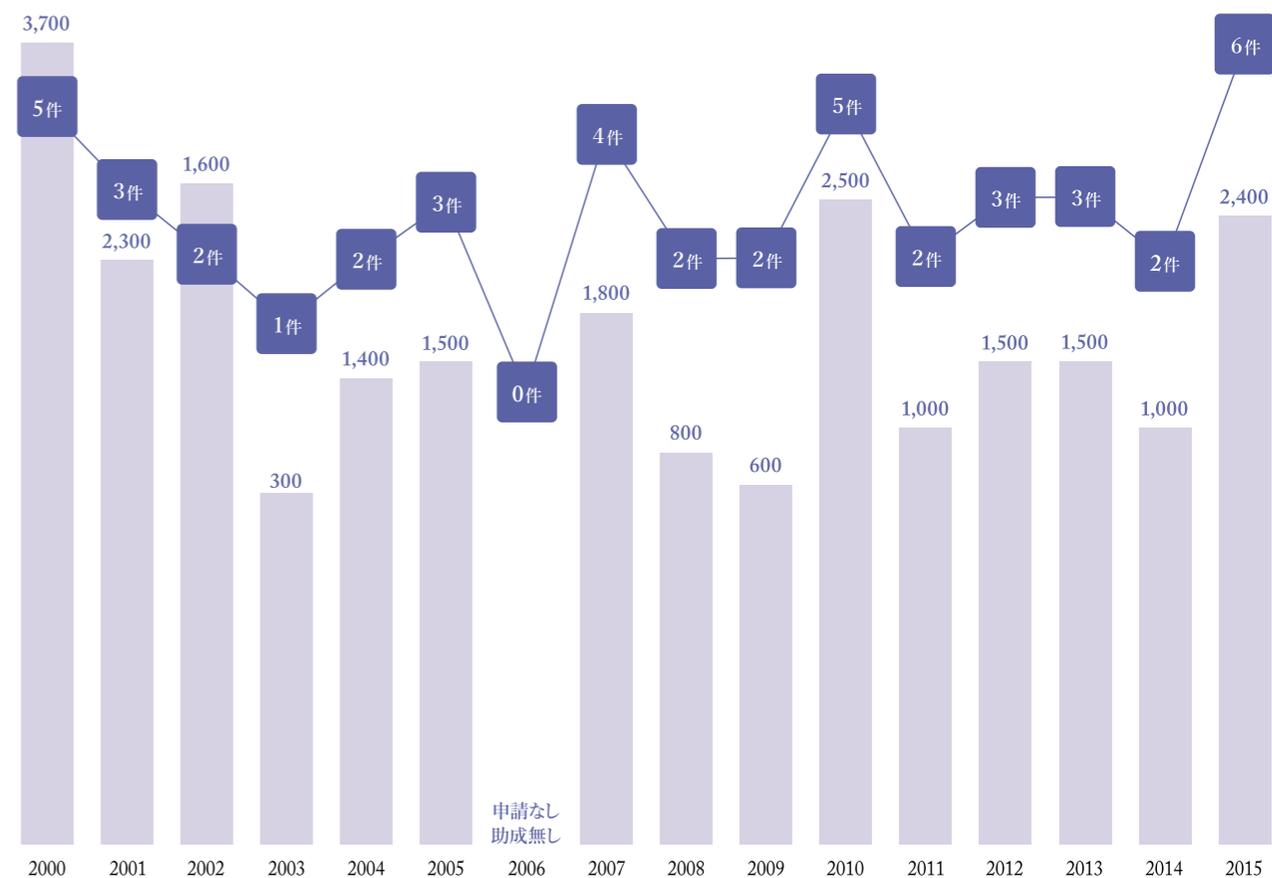
学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第 17 回 乳幼児けいれん研究会・国際シンポジウム	平成 28 年 7 月 1 日～ 3 日	一橋講堂	500
第 2 回 日本小児超音波研究会学術集会	平成 28 年 10 月 22 日	自治医科大学附属 さいたま医療センター	150
The Fourth International Conference on Rare and Undiagnosed Diseases	平成 28 年 11 月 16 日・17 日	学士会館等	500
第 41 回 東日本小児科学会	平成 28 年 11 月 23 日	山梨県立県民文化ホール	500
第 27 回 日本疫学会学術総会	平成 29 年 1 月 25 日～ 27 日	ベルクラシック甲府	500

※開催日順

The Fourth International Conference on Rare and Undiagnosed Diseases の様子



医学会助成：これまでの実績



申請なし
助成無し

(単位 千円)

※平成 4 年から開始

5

小児医療施設支援

平成 28 年度 小児医療施設支援：活動報告

平成 28 年度は、3 件の小児医療施設に対して総額 308 千円の助成金を交付しました。

助成一覧

施設名	使途	交付額(千円)
埼玉医科大学 総合医療センター	小児病棟に入院中の小児患者、および小児病棟に入ることができず待合室で待機している 15 歳以下のごきょうだいのためにテレビや DVD プレーヤー、フロアマットを購入	124
埼玉県立 小児医療センター	小児病棟に入院中の小児患者のご両親や祖父母が面会に来られる際、幼いごきょうだいを連れて来られることも多いため、授乳やオムツ交換用の小児ベッドを購入	150
自治医科大学附属 さいたま医療センター	NICU や GCU に入院中の小児患者に直接面会のできないごきょうだいが、窓越し面会でもお互いの声が聞こえるようにワイヤレスインターホンを購入	34

再開にあたって

医療施設に入院中の小児患者のためのボランティア活動に対して、視聴覚教材などを提供する等の支援を平成 7 年に行いました。その後しばらく支援を行っていませんでしたが、当財団の役割を全うするため、平成 28 年度より小児医療施設支援を再開しました。以前よりも支援の幅を広げ、ボランティア活動に限らず、医療施設に入院中の小児患者の QOL (生活の質) を向上させるための活動や設備の充実に対して必要となることであれば、その費用に対して助成を行うこととしました。

自治医科大学附属さいたま医療センター新生児部門の様子



平成 28 年度 小児医療施設支援：支援施設インタビュー

支援施設の 1 つである自治医科大学附属さいたま医療センターの佐藤先生にお話をお聞きました。



佐藤洋明先生

Hiroaki Sato

自治医科大学附属さいたま医療センター
新生児部門 講師

それを解決するために窓越しでも会話のできるワイヤレスインターホンの購入費用を申請しました。

3. 実際に導入されて、利用者の方たちの反応はいかがでしたか

きょうだいに関して言えば、直接話ができることを喜んだり、自分の弟や妹に以前より興味をもつ姿が増えたように思います。これは兄や姉としての自覚を芽生えさせ、退院前にこころの準備をさせる貴重なきっかけにもなっています。また、NICU・GCU 側で新生児を抱いて面会をしている両親にとっても、ワイヤレスインターホンを通じて窓越しにいるきょうだいと話ができるため、安心感につながっているようです。こうしたちょっとした機材の導入が大きな変化をもたらすことを実感しています。

4. 長期入院をされる小児患者さんに対する支援として、これからさらに改善していきたいと感じていること等あれば、教えてください

家族中心のケアは NICU や GCU にとって特に大切ですので、面会環境の改善をはかっていきたいと思っています。家族が周りを気にせず面会ができるように、新生児用のベッドサイドにパーテーションを置いたり、何らかの事情で宿泊が必要となるご家族のために宿泊設備の充実をしていければと考えています。



1. NICU および GCU にはどのような赤ちゃんが入院されているのでしょうか

早産のため低体重で生まれた新生児や生まれつき心臓病などの疾患を持っている新生児、また生後上手く呼吸ができなかったり、ミルクがスムーズに飲めない新生児が入院をしています。状態によって入院期間に違いはありますが、毎年だいたい 300 名前後の赤ちゃんが、約 1~2 週間ほど入院をしています。こういった新生児が健やかに成長できるように、医師・看護師・家族が丸となったケアを大切にしています。

2. 今回ワイヤレスインターホンの購入をされたいとのことでご申請を頂きましたが、その理由を改めてお聞かせ願えますか

NICU や GCU で人生の始まりを迎える新生児本人にとっても、大切な家族の一員が増えたそのご家族にとっても、面会は重要な意味をもっています。ただ、新生児は感染に対する免疫力が非常に弱いため、直接面会ができるのは両親とその祖父母に限られており、きょうだいは NICU・GCU の窓越し面会のみ許可されています。しかし、窓を通してでは声を聞くことができず、残念な想いをされるきょうだいもおられました。

6 医学書寄附

平成 28 年度 医学書寄附：活動報告

平成 28 年度に、奨学生のための医学書寄附を実施しました。

開始にあたって

平成 2 年から奨学金事業を通じて、小児医学を志す医学生に対して経済的支援を行ってきましたが、経済的な支援以外でも何か力になれることがあれば行いたいと考えてまいりました。

そんな時、奨学生と話をする中で、「勉強のために医学書を購入したいが、高額でなかなか購入できない」という声を聞いたのが、この医学書寄附を行うきっかけとなりました。その後実施した全奨学生に向けたアンケートでも、半数の 50% の学生から同様の声が上がリ、必要性の大きさを感じました。

活動の結果

平成 28 年度には、当財団から研究助成金を交付させていただいた先生方や川野賞受賞者の皆様、選考委員の先生方にお声掛けし、不要となった医学書の寄附をお願いしました。結果、41 冊の医学書をご寄附いただき、既に多くの奨学生が希望の医学書を手に入れることができます。実際に奨学生から多くの感謝の言葉をもらい、勉学に役立てていただいております。

医学書をご寄附いただきました先生方に改めて御礼申し上げます。



今年度も医学書のご寄附を受け付けますので、是非ご協力お願いいたします

【受付期間】

平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日

【ご寄附の流れ】

ご寄附いただける医学書がありましたら

以下までご連絡下さい

公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛

Tel: 049-247-1717 Mail: info@kawanozaidan.or.jp

【注意事項】

- ・医学書のみ可、コピー等は不可とさせていただきます
- ・ご寄附いただいた医学書は、返却できませんので
ご了承下さい



平成 29 年度 | 経過報告

Interim Report 2017

1 研究助成

平成 29 年度 研究助成：交付者一覧

平成 29 年度は、一般枠 47 名・若手枠 42 名の応募があり、平成 29 年 3 月 4 日に開催した選考委員会の結果、一般枠 16 名・若手枠 19 名の計 35 名の研究者の方に総額 41,680 円の助成金を交付することが決定しました。

[一般枠 16 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
古村 眞	埼玉医科大学医学部小児外科 「構造的先天性欠損症に対する自律再生メカニズムの解明研究」	3,000
佐野 伸一郎	浜松医療センター小児科 「偽性副甲状腺機能低下症における (epi)genotype-phenotype correlation の解明と疾患成立機序の解明」	3,000
合山 進	東京大学医科学研究所先端医療研究センター細胞療法分野 「AYA 世代白血病の病態解析と治療法の開発」	3,000
清水 正樹	金沢大学医薬保健研究域医学系小児科 「マクロファージ活性化症候群の病態解明と IL-18 を標的とした新規治療法の確立」	3,000
古道 一樹	慶應義塾大学医学部小児科学教室 「iPS 技術を利用した先天性心筋症の遺伝子型一表現型相関を決定する分子機構の解明」	3,000
伊丹 千晶	埼玉医科大学医学部生理学 「発達期における内因性カンナビノイドの作用機序の解明」	2,400
神田 祥一郎	東京大学医学部附属病院小児科 「先天性腎尿路異常(CAKUT:Congenital Anomalies of the Kidney and Urinary Tract)の新規原因遺伝子同定—Cbwld(Cobalamin Synthetase W Domain-containing protein1)の腎臓発生における役割—」	2,400
朴 明子	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 「ダウン症候群と非ダウン症候群の一過性骨髄異常増殖症と白血病の次世代シーケンサーを用いた解析」	2,400

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
佐久間 啓	公益財団法人東京都医学総合研究所 「microRNA の網羅的解析を起点とする急性脳炎・脳症に対する新規治療標的分子の探索」	1,500
酒井 康成	九州大学病院小児科 「誘導皮質スフェロイドを用いた早期発症型てんかん性脳症の発症メカニズムと新規治療法の探索」	1,500
福原 大介	杏林大学医学部小児科学教室 「病的血管新生に関わる新しい VEGF シグナル下流分子である T-cell specific adaptor を標的とした未熟児網膜症の創薬研究」	1,500
高橋 和浩	帝京大学医学部小児科学講座 「小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI T2 マップ画像による組織診断」	1,000
渡邊 美穂	東京大学医学部附属病院小児外科 「胎児外科治療の為に In vitro シミュレーションモデル構築」	1,500
荒木 敏之	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第五部 「末梢神経脱髄疾患の治療法開発に関する基礎的研究」	1,500
金井 孝裕	自治医科大学医学部小児科学講座 「新たに開発した検査装置(細径ファイバー・超高周波数超音波顕微鏡)による腎病理診断法の確立を目指して」	1,500
柳田 紀之	独立行政法人国立病院機構相模原病院小児科 「VitaminD による RS ウイルス感染症の重症化予防効果に関するランダム化比較試験」	1,000

[若手枠 19 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
三橋 里美	東海大学医学部基礎医学系分子生命科学 「ネマリンオパチーの転写産物解析による遺伝子診断技術の開発—ナノボアシーケンサーによる診断困難な遺伝子変異の検出手法の開発—」	1,000
天野 日出	東京大学医学部小児外科 「小児の腸管吻合における生体吸収性補強材の開発—安全で簡便な新しい腸管吻合術を目指して—」	1,000
藤里 紘子	国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター 「子どもが自分の気持ちを大切にできるようにするために：子どものうつ病と不安症治療のための感情調整尺度—児童青年版の標準化」	1,000
加藤 基	埼玉県立小児医療センター形成外科 「小児リンパ疾患の実験的・臨床的研究」	1,000
小倉 友美	防衛医科大学小児科学講座 「TCF3 異常による原発性免疫不全の同定と病態解析」	800
長野 伸彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「新生児慢性肺疾患における細胞内抗酸化物質チオレドキシンの重要性に関する研究」	800
森田 英明	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部アレルギー研究室 「新生児・乳児消化管アレルギーの病態に関する細胞の同定」	800
山崎 大賀	北里大学メディカルセンター研究部門・医療環境科学センター 「顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー治療を目指したエビゲノム編集技術の開発」	800
高橋 正貴	東京大学医学部附属病院医学系研究科 生殖発達加齢医学専攻小児外科 「リンパ管腫のリンパ動態を応用した新しい光線力学治療の開発」	800
福武 麻里恵	慶應義塾大学医学部産婦人科 「ヒト羊水幹細胞を用いた周産期関連疾患に対する新規治療法の開発【ヒト羊水幹細胞シートの創傷治癒への効果について】」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
三木田 馨	慶應義塾大学医学部感染症学教室 「ナノボア型シーケンサーを用いた、トキソプラズマ原虫のゲノム疫学解析技術の開発と先天性トキソプラズマ症の病態解明」	800
藤本 義隆	東京慈恵会医科大学小児科学講座 「左心疾患に起因する肺高血圧症モデルの作製、病態解明」	500
直 亨則	国立感染症研究所ウイルス第三部 4 室 「ヒトメタニューモウイルス及びその他のパラミクソウイルス増殖に関与する宿主因子の網羅的解析—パラミクソウイルス感染症に共通する治療法開発への基盤研究—」	500
赤松 智久	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部 「新生児低酸素性虚血性脳症におけるシクログリア発現 LOX-1 の役割の解明」	500
高澤 慎也	群馬県立小児医療センター小児外科 「単一切開創から行う腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術における術者の鉗子と腹腔鏡との鑑賞回避に関する研究」	500
原 真理子	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 「摘出扁桃を用いた Periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and cervical adenopathy (PFAPA) 症候群の病態解明」	500
瀧城 真衣子	群馬大学医学部附属病院小児科 「小児期発症炎症性腸疾患における脂肪酸代謝と腸内細菌叢の意義」	500
岡本 圭祐	東京医科歯科大学医学部附属病院小児科 「小児期発症全身性エリテマトーデスの遺伝的背景の探索」	500
西野 智彦	埼玉県立小児医療センター腎臓科 「小児病巣感染症の口蓋扁桃細菌叢の検討及び一般培養検査と 16S rRNA 系統解析・Multiplex PCR による比較検討試験」	500

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

平成 29 年度 研究助成選考委員会の様子



2 奨学金給付

平成 29 年度 奨学金給付：給付者一覧

平成 29 年度は、新規 5 名・継続 13 名の計 18 名の医学生に対して、総額 12,960 千円を給付することが決定しました。

[新規給付 5 名]

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	1	720
慶應義塾大学	1	720
島根大学	1	720
千葉大学	1	720
福島県立医科大学	1	720

[継続給付 13 名]

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	2	1,440
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	2	1,440
産業医科大学	1	720
島根大学	2	1,440
順天堂大学	1	720
獨協医科大学	1	720
山梨大学	2	1,440

※五十音順

3 平成 29 年度の募集について

募集概要

平成 29 年度は、以下の事業において募集を受け付けます。詳細は当財団 HP をご確認ください。

小児医学川野賞	
対象分野	小児医学、ことに基礎医学、臨床・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1)平成 30 年 3 月 31 日時点で 55 歳以下のもの (2)学会もしくは研究機関より推薦を得られたもの
顕彰	賞状、メダルおよび賞金(100 万円)
募集開始	8 月予定

医学会助成		小児医療施設支援	
応募資格	小児医学に関連する医学会であること	応募資格	原則として埼玉県内にある小児医療施設
助成内容	50 万円以内/件	助成内容	15 万円以内/件
募集時期	随時募集中	募集開始	9 月予定

研究助成	
対象分野	小児疾患の診断・治療・予防に関する基礎研究、臨床並びに社会医学的研究(ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る)
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1)以下の条件を満たすものが主任研究者または、共同研究者に在ること 埼玉県内の高校を卒業し、又は首都圏内に在住し、かつ総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者 (2)申請者が所属機関の推薦を受けていること (3)若手枠の場合は、申請者が 40 歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉100～300 万円/件 〈若手枠〉100 万円以内/件
募集開始	9 月予定

役員・評議員・選考委員一覧

[理事]

理事長
川野 幸夫
株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

常務理事
柳澤 正義
国立成育医療研究センター / 名誉総長

川野 光世
株式会社川野商事 / 代表取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 / 理事

新井 一
順天堂大学 / 学長

上池 昌伸
株式会社ヤオコー / 常務取締役

[監事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 / 代表取締役会長

原 敏成
武州瓦斯株式会社 / 代表取締役社長

※敬称略・順不同

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー / 相談役

川野 澄人
株式会社ヤオコー / 代表取締役社長

利根 忠博
一般社団法人埼玉県法人会連合会 / 会長
埼玉りそな銀行 / 元会長・社長

村井 満
公益社団法人日本プロサッカーリーグ / チェアマン

高篠 包
高篠・柿沼法律事務所 / 弁護士

森川 昭廣
社会福祉法人希望の家附属
北関東アレルギー研究所 / 所長

※敬称略・順不同

[選考委員]

雨宮 伸
埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷 / センター長

奥山 眞紀子
国立研究開発法人国立成育医療研究センター
こころの診療部 / 部長

河野 陽一
独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 / 院長

坂本 穆彦
大森赤十字病院 / 顧問

城 宏輔
医療法人すずき小児科 / 院長

貫井 英明
山梨大学 / 名誉教授・名誉顧問

野々山 恵章
防衛医科大学校小児科学講座 / 教授

林 泰秀
群馬県赤十字血液センター / 所長

桃井 眞里子
自治医科大学 / 名誉教授

山縣 然太郎
山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 / 教授

山城 雄一郎
順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 / 特任教授

※敬称略・五十音順

平成 29 年 6 月 14 日現在

ご寄附のお願い

小児医学の発展により元気な子どもたちを増やしたい、という当財団の想いにご賛同いただき、お力添えいただけますと誠に幸いです。ご寄付いただける場合には以下の通りお願いできればと存じます。

1

当財団ホームページより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、下記まで郵送またはFaxにてお送り下さい
郵送の方：〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町 1-5 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛
Faxの方：049-246-7006

2

銀行等より、ご寄附をお振込み下さい

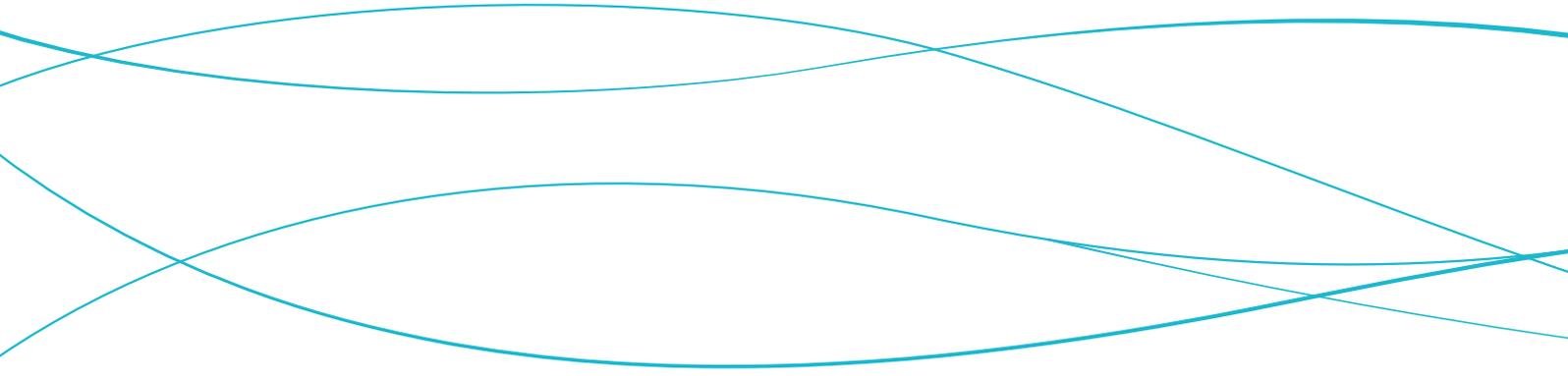
3

ご寄附の振込を当財団にて確認後、お礼状・領収書・寄附控除のご案内を送付いたします

4

税金の控除等を受けるためのお手続きをお願いいたします
個人の場合：ご寄附をされた翌年の 2 月 16 日～3 月 15 日までに税務署宛て 確定申告手続き行って下さい
法人の場合：ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行って下さい





公益財団法人
川野小児医学奨学財団

〒350-1123

埼玉県川越市脇田本町 1-5

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp